



ゴールデンウィーク中は子供達の姿も多く見られました



沖津宮が鎮座する沖ノ島は、歴史の表舞台に大きく二度スポットが当てられている。一つは四〇世紀にかけて大和朝廷により国家の安泰と海路の安全を祈って行われた「国家祭祀」である。

もう一つは、我が国がアジアの国々に先駆けて近代化した明治時代、我が国の命運をかけたロシアと戦った「日露戦争」である。その中でも最大の海戦となった『日本海海戦』が、明治三十八年（一九〇五）五月二十七日、沖ノ島北西の洋上で行われた。世界海戦史上、稀にみ



特別展会場入口

る大勝利は周知の通りであるが、当時指揮を執った日本連合艦隊東郷司令長官（元帥）は、ひとえに宗像大社の神助によるものと、海戦後、「神光照海」

日本海海戦一〇〇周年特別展
『亜細亜の夜明け』開催中
4/29 ~ 6/28まで

6月祭事暦

- 〇毎月1・15日月次祭
- 1日
 - 午前10時 高宮祭 第二宮・第三宮祭
 - 引き続き 宗像護国神社 月命
 - 午前11時 総社祭(浦安舞奉納)
- 15日
 - 午前10時 高宮祭 第二宮・第三宮祭
 - 引き続き 第二宮・第三宮祭 宗像護国神社 巡拜
 - 午前11時 総社祭(豊栄舞奉納)

最近教育基本法の見直し等も耳にする。ゆとり教育の歪みにより学力の低下が問題視されている。戦後我が国は学歴社会と化し、学力・学歴が最も重要視されてきた。しかし、学力よりも先ずは心の教育が先決ではなからうか？テストでいい点を取りたい大学に進むよりも、国を愛し人を思いやり祖先を敬う心を養うためにも是非今一度この『教育勅語』を紐解き日本人らしさを取り戻すべきではないだろうか？それこそが我が国の急務である。

日本国民が日本人らしさを一日でも早く取り戻し、悲惨なニュースが聞こえてこない日を待ち臨む。

(A・I)

『教育勅語』とは、明治二十三年十月三十日に発せられた明治天皇の勅語であり、我が国の教育の根本方針であった。

毎日ニュースから流れてくるのは、以前では考えられない親子を殺し、子が親を殺す、又成人が幼児を虐待するなど悲惨なものが多い。近年まで世界で一番安全な国日本はどこに行ってもあったのだろうか？日本人の日本人らしい道徳・美德・モラルはどこにあるのか？私はそれが『教育勅語』にあると考えている。



神具・装束 結婚式場調度品

福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31 電話 福岡(092)651-9456番

本店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入 電話 (075)341-3341(代)~4番 (075)343-3341番

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567

の額、指揮を執った軍艦「三笠」の「羅針儀（船の命）」等を奉納し、篤い崇敬の念を捧げられた。本年は海戦勝利より百周年にあたる。これを記念し、全国各地で奉祝行事等が開催または予定されているが、当大社でもこの大海戦の歴史的意義等をできる限り多くの人々に再確認していただくと共に、次の世代へと伝えられていくことを願い、四月二十九日より六月二十六日迄の二ヶ月間、神宝館で「亜細亜の夜明け〜日本海海戦百周年特別展〜」を開催している。

初日の二十九日午前十時に開館式が行われ、神職による御祓いの後、神島宮司より「明治の先人達の偉業に想いを寄せてほしい」と挨拶が行われた。同展では、当時島に勤務していた神職の克明な「社務日誌」など、当大社所蔵品はもとより、東郷神社（福津市）より軍艦「三笠」の「探照灯」、東郷元帥直筆の書、写真等を、的原神社（福津市）より巨大絵馬をと総数五十点余りを展示している。また（財）三笠保存会（神奈川県横須賀市）協力のもと、日露戦争の経緯や当時の世界情勢など一連の流れを、パネルを使い分かり易く解説されている。

当時の極めて厳しい国際情勢下、国難に立ち向かい克服した明治の先人達から何かを学びに足を運んでみてはいかがでしょうか。



神島の将校の制服も展示(写真左)



パネル展示も豊富で、当時の状況がよく分かります



軍艦「三笠」の探照灯(実物)も展示中(写真左)



開幕式で挨拶をする神島宮司



福津市の神社に奉納された巨大絵馬もあります



(財)三笠保存会の協力を得て、様々なグッズも配布しています



軸類は全て直筆です



メイン展示品である軍艦三笠の「羅針儀」、探照灯、海軍副官「正服」

神郡宗像に初夏の漂い 五月・浜宮祭齋行

風薫る五月五日こどもの日、恒例の五月・浜宮祭が、宗像市神湊の浜宮で、引き続き同市江口の五月宮で齋行された。

五月五日早朝、奉仕員一同宗像市神湊の住宅街に鎮座する浜宮へ出向。浜宮には御社殿はなく石祠で、その御神前に海川山野の味物に加え、

の木を依代とする神籬祭場で、その前庭に浜宮祭と同じく神饌をお供えし、午前十一時浜宮祭参列者に加え、江口区の各区長、玄海少年自然の家関係者、地元の方が多数参列する中、五月祭を齋行した。同宮は釣川の河口に鎮座し、海からの浜風が往時の『濱殿』を髣髴とさせる心地よい祭典となった。



左の櫓が五月宮の依り代である神籬 (五月祭)



浜宮祭で祝詞を奏上する神島宮司

神島宮司以下神職四名が奉仕し、当大社責任役員、氏子会、地元総代をはじめ神湊地区の各区長をはじめ地元の方が多数参列した。引き続き、同市江口の五月ヶ丘に鎮座する五月宮へ移動。五月宮も御社殿はなく、大きな柱

の若葉が敷かれた折敷に盛られた赤飯・ガメ煮・膾・粽を古式ゆかしく栗箸でいただきますながら、神人和楽の一刻を過ごした。稲の成長を予祝する神事でもあるこの五月・浜宮祭が終ると、神郡宗像では田植えの準備が始まり、一面の水田に早苗が影を浮かべながら夏へと木々も緑を深めていく。



元来は端午節句の祝祭であるが、今から約六〇〇年前の当大社の祭事記録(正平年中行事・鎌倉期御供下行事・応安神事次第等)によれば、本来の早苗月(早苗を植える時期)の信仰に外来の節句が相重なり、中世におけるその祭事では田植神事・田楽に加え、京風の競馬・流鏝馬・真弓(歩射)等も行われ、その様子は秋の「放生会」に対し「五月会」大神事」と呼ばれる程の賑わいをみせていた。
当時は、海上に社殿を設ける「浮殿造り」の「濱殿」という御旅所が江口浜(河口)に設けられて、五月五日この濱殿へ田島宮(現川辺津宮)から、三宮(沖・中・辺津宮)と許斐宮(宗像市王丸)、織幡宮(宗像市鐘崎)宗像五社の神輿が御神幸した。現在の浜宮・五月宮いづれも「濱殿」の置かれた地と推察されている。中世に隆盛を極めたこの祭事も、宗像大宮司家の断絶等により江戸期には中絶されたが、昭和三十八年五月五日三〇〇年振りに齋行され今日に至る。
当時を伝える社報「宗像」二十九号(昭和三十八年六月一日発行)には、宗像市郡内の神職らが奉仕し、十二体の神籬が刺し立てられたこと、一五〇人の参列があったこと、浜宮祭終了後、みあれ祭の御座船と同じく紅白の「吹き流し」を靡かせ、五月宮まで陸上神幸したこと等、当時の様子が記録されている。

平成十七年度 宗像大社奨学金・宗像大社荒井奨学金

受給生奉告祭

受給生は延べ七一五人に

四月二十九日昭和祭で賑わう御本殿で、平成十七年度宗像大社奨学金・宗像大社荒井奨学金受給生の奉告祭が斎行され、本年度の受給生六〇名が御神前に集った。

当日は宗像・福津両市内の中学を卒業し、進学した生徒六十人が保護者とともに参集、午前十一時からの昭和祭に参列、昭和祭終了後には拜殿に昇殿し、奉告祭にも参列した。



平成17年度の奨学金受給者面々

祭典では、宗像地区校長会の代表も玉串を捧げ、宗像大神様に立派な社会人になるよう勉学に勤しむことを誓った。祭典後には清明殿で、『選定書授与式』と『説明会』が行われ、神島宮司から宗像大社奨学金選定書を、当大社の奨学金制度に賛同され平成十二年から支給している宗像大社荒井奨学金選定書を(株)セントラル・ユニ荒井範雄会長の代理として、中富玄海中学校長からそれぞれ手渡された。その後、担当神職が



神島宮司より『選定書』を受け取る第47期生代表

昭和三十五年から始まっているこの奨学金の歴史、制定目的、規定、受け取り、続いて、今までは原稿用紙を持ち帰っての執筆であったが、本年度からその場で生徒一人一人に各テーマに沿って作文を執筆してもらい、保護者が代理で出席した方は保護者が決められたテーマから一つを選び執筆した。与えたテーマは①奨学金の使い道、②将来の夢、③宗像大社と私、④宗像大社での思い出、⑤私の家族、⑥最近の気になるニュースの六つで、各人思い思いに書いていた。(この作文は紙面の都合もありますが、今月号から『奨学金受給生便り』として掲載致します。)



作文は子供の代理として来られた保護者の方にも執筆いただきました。

書き終えた方から、第一回目の奨学金支給を受け、境内をあとにした。当大社の奨学金制度は、昭和三十四年十一月十一日、今上陛下の御成婚を記念して制定、翌年の昭和三十五年に第一期生として、宗像市・郡内の中学校出身者(当時は六中学校)に支給され、現在は宗像市・郡内十中学校より各校二名づつ毎年二十名に支給している。今春の新受給生二十名で延べ人数は七〇五人にのぼる。『郷土を愛し、将来の日本を背負う有為な人材の育成』(宗像大社奨学金受給生規約より)の制定の趣旨にそった社会人になることを切望する。



昭和祭での巫女舞『浦安舞』

第四十七期新奨学生

二〇名は次の通り

- 吉永 圭佑 (大島中卒)
- 古賀有加里 (〃)
- 龍官のぞみ (玄海中卒)
- 鎌瀬 芽衣 (〃)
- 馬渡あゆみ (日の里中卒)
- 吉武 香織 (〃)
- 磯邊 聡文 (宗像中央中卒)
- 佐々木美奈 (〃)
- 大坪多佳墨 (城山中卒)
- 増山 綾 (〃)
- 赤川 千尋 (河東中卒)
- 松隈 舞 (〃)
- 野上 智晃 (自由ヶ丘中卒)
- 井上 優美 (〃)
- 濱村 学 (津屋崎中卒)
- 中島 朱音 (〃)
- 須藤実智子 (福間中卒)
- 前田 裕子 (〃)
- 杉本 久欣 (福間東中卒)
- 岡本 怜花 (〃)

玄海未来塾 今年も『沖ノ島』を清掃

四月二十六日、宗像市の町おこしグループである「玄海未来塾」(代表 吉武邦彦氏) 以下会員二十四名が、本年も当大社沖津宮の鎮座

する沖ノ島に渡り清掃奉仕を行った。宗像市神湊の沖合い約六十キロ、玄界灘の真つ只中に浮かぶ、絶海の孤島『沖ノ島』は島全体が御神



屋根に溜まった落葉もきれいに掃いていただきました

体島であり、原則として一般の方の上陸が禁止されているが、毎年五月二十七日に同島で行われる「現地大祭」当日のみ、一般の方の参拝が許されている。

まず、沖ノ島勤務中の神職が奉仕し奉告祭を齋行、一同敬虔な祈りを捧げた後、清掃奉仕に入った。宗像大社辺津宮より、一年を通して神職一名が常駐勤務しているため、参道等は掃き清められているが、台風等で倒れた巨木、本殿・拜殿の屋根に積もった落ち葉、海岸に流れ着いた巨大なゴミ等、一人で



チェーンソーを使って倒木も撤去していただきました



奉仕作業前の報告祭 (沖津宮社殿内)

行うことが困難な清掃を会員一同に行っていた。昨年の台風で本殿横に倒れた木などは、チェーンソーを使って細かく切って撤去するなど、清掃奉仕は二時間に亘って行われ、見違える程の清らかさを取戻した。奉仕作業後、島の荘厳な風景の中波止場で直会を催し、共進丸で島を周回した後離島した。帰路、三月二十八日宗像市と合併した大島の「中津宮」を正式参拝、午後四時無事に鐘崎港へ到着した。本年度の清掃奉仕を終え、日本海海戦百周年の記念すべき年となる今年の「沖津宮現地大祭」の無事齋行を祈念し一同家路へついた。

新人紹介

5月1日付で、職員が新たに加わりましたのでご紹介致します。

①氏名 ②生年月日(年齢) ③出身 ④経歴(学歴) ⑤特技 ⑥抱負

巫女



- ① 白石 はな絵
- ② 昭和62年2月22日 (18歳)
- ③ 宗像市鐘崎
- ④ 水産高
- ⑤ タコ釣り、アコースティックギター

⑥ 父は鐘崎の広栄丸こうえいまるです。高校生の時に宗像大社で巫女さんのアルバイトをしてみたいと思いました。これから先輩の巫女さんにいろいろ教えていただき、一人前の巫女になりたいと思います。至らない点が多々あると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

むなかた電子博物館オープン ～特別企画では『沖ノ島特集』も～

4月21日、宗像市役所の公式ホームページ（HP）とは別に、情報政策課が中心となり構築準備委員会が制作する『むなかた電子博物館』がオープンしました。

このHPは、宗像全体が貴重な博物館であるとの考えのもと、小中学校の教材や市民の地域学習の一助となることを目的に「わがまち宗像」を様々な角度から分かり易く作られています。

宗像地域を海・地上・動植物・人・文化・星と六段階の階層で表現し、見学者を見たいカテゴリーにすばやく案内します。この地域全体を空間的に表現しているのが、今までの『電子博物館』『インターネット博物館』との違いで、この試みは全国初だそうです。

大人だけでなく子供も対象としたHPらしく、「むなかた仙人（宗像のことならなんでも知ってる仙人）」というキャラクターがメインナビゲーターとして案内し、さらに「仙人のルーペ」など七つ道具が要所に配置され、さらに詳しく知りたい方にも対応出来るようになっていきます。

特別企画展コーナーもあり、今回は「むなかた歴史探検隊 沖ノ島特集」として、当大社境内地『沖ノ島』が特集されています。

CG映像もあり沖ノ島の裏側は勿論、回転させたりもできます。『むなかた』をご存知ない方、さらに『むなかた』を知りたい方、アクセスしてみたい方が多いのではないでしょうか。



アクセス

むなかた電子博物館
<http://d-munahaku.com>
お問い合わせ先
宗像市 情報推進課 情報推進 係
TEL (0940) 36-5444



三月二十日十時五十三分、福岡は揺れ動いた。福岡には大きな地震はない—という安全神話が揺れた日だった。それから今日まで余震に脅えている。台風のように刻々と情報が入ってくるのと違い、全く地震は突然やってくる。阪神・中越・スマトラ地震と地震の恐怖はいやと言うほどテレビで見えてきたが、それが現実体験するとは福岡の者は誰れ一人として思っていなかったであろう。

私はその日、福岡市海の中道を歩こうと、宮地岳線に家内と乗っていた。地震の時は電車の中だった。三苦駅の手前で電車が停まった。運転手が何か言っていたがよく聞こえなかった。動き出して三苦駅で降り、改札口に出ると、駅員が「ここは危ないからすぐに出て下さい」と言う。駅から外に出ると、近くの家々から人が外に出ている。みな蒼い顔をして「怖かった」「震度六弱

いしいただし



(続)



DyDo ダイドー祭りドットコム 2005



ダイドー祭りドットコム 2005参加祭り【北から】

- ねぶた祭り (青森) 阿波踊り (徳島)
- 相馬馬追 (福島) よさこい祭り (高知)
- 放生祭 (福井) 西大寺会陽 (岡山)
- おわら風の盆 (富山) 若宮八幡裸踊り (大分)
- 浜松まつり (静岡) **みあれ祭** (福岡)
- につぼんど真ん中祭り (愛知) 長崎くんち (長崎)
- 糸満ハーレー (沖縄)



<http://www.dydo-matsuri.com/>

ダイドー祭りドットコム お祭りレポート『みあれ祭現地特派員が行く』スタート

『ダイドードリンク(株)』ご存知でしょうか。大阪府中央区に本社を置く総合飲料メーカーです。このダイドーが主催しているウェブサイト『ダイドー祭りドットコム』に、当大社の『みあれ祭』が全国の様々な『祭り』とともに掲載されており、各地の祭りを伝える「現地特派員が行く」のコーナーでは、広報担当の神職がブログ(日記形式のホームページ)を載せています。

このダイドーさん「ドリンク」ではなく、「ドリンコ」なのが以前から気になっていましたが、この「ドリンコ」は「ドリンク(Drink)」に仲間・会社を意味する「カンパニー(Campny)」のCをプラスした造語だそうです。「ダイドー」は、設立母体である『大同薬品工業』を英字標記にしただけに思われがちですが「ダイナミック(Dynamic)」と「ドウ(Do)」にちなんで、『ダイドー』としているそうです。つまりダイドードリンコとは、「ダイナミックに活動するドリンク仲間」という意味が込められているようです。

その理念を通し『日本の祭り』を応援しているのが、『ダイドー祭りドットコム』で、このウェブサイトは平成15年に青森のねぶた祭りを紹介した『ダイドーねぶたドットコム』に始まり、昨年は全国9ヶ所の祭りを、今年は13ヶ所の祭りを紹介しています。

勿論、みあれ祭もあり、ブログは既に始まっています。みあれ祭は10月ですが、予定ではみあれ祭終了後の12月位まで続くようです。是非御覧下さい。

通じ、復元した土器八点ほどが転倒して割れていた。

文政八年(一八二四)の福岡桑野文書の『年代記』を見ていたら地震の記録がある。

明和四年(一七六七)三月二日、

夜大地震とか、安永六年(一七七七

正月八日亥の刻地震。同七年正月

十八日、丑の刻大地震、二月五日も

地震、寛政三年(一七九一)も十月

大地震、同四年の七月廿二日、夜五

ツ時大地震は、半時程「大ゆり」、

歩行之者ハ倒レ申程也。とある。同

年十二月二日夜、五ツ時大地震は鳴

動し、等々、大地震が結構襲っている。

古くは天武紀七年(六七八)筑紫

国を襲った大地震(筑紫大地震)が

あり、久留米周辺の遺跡からこの時の

地震による地割れや噴砂が確認されて

いる。宗像市富地原川原田遺跡から地

割れの跡が発掘され、その底部から『

嘉祐通寶』が出土している。



福岡市東区三苫 3月20日

三苫にて、棟瓦が多くこわれた



3月20日、三苫海岸の道路(未舗装)の地割れ



わが家、棚から落ちた



三苫 綿津見神社、灯籠の倒壊

第五二六回

宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メ切



飛び込んでも帰りたいとふ玄界島の漁師の言葉耳をはなれず

(評) この欄でも地震の歌は多く寄せられたが、島こそ違ふものと同じ島住みで漁業従事者の生活を良く知る作者ならでの、異色の一首。

宗像市 大島 杉田 禮子

朝の日に木々の若葉の輝くもニュースは叫ぶ反日デモを

(評) 私達を驚愕させた中国各地に於けるあの反日デモ、その驚きが上句と下句をつなぐ三句の係助詞「も」が効果的で巧みな一首。

宗像市 田野 森 甲子

起きぬけに白一色の雪景色神の仕業と暫し見惚るる

(評) 今年の冬はたのめない天候で三月半には思いもよらぬ降雪があった。それを神の仕業とした表現は見事。私も春の雪を三首出しました。

宗像市 田野 森 つるの

博多川泳ぎてゐたる海猫は砂地に足のとどけば歩く

(評) この海猫は普通カモメと呼んでいるものだろうが、大方は鳴き声や飛んでいるさまを詠うのに、足に目を付けたのはお手柄、海猫が何とも可愛気である。

宗像市 朝野 藤井 浩子

保険証もカードに変わり入れ場所に迷ひてをりぬ老二人住み

(評) カードの保険証は未だ見たことが無いが、デパートやバス会社の発行しているのと同じ型なのか、カード会社の今、迷惑千万で新しいものには馴染めない老の嘆きに同情。

宗像市 朝野 藤井 浩子

花冷えに娘は青白き顔をして残業つづくつかれを見せる

福津市 中央 池浦 千鶴子

福津市 中央 中村 勇

所帯持ちし時に求めし練炭火鉢先の地震に壊れしが捨てず

浮羽市 浮羽 向 則正

淡窓の私塾の跡の咸宜園巡れば素読の幻聴を聞く

宗像市 池田 森龍子

薊の花避けて土筆摘みれば自転車の子ら声掛けくるる

宗像市 日の里 大和美由紀

古墳から見渡す四方は真白なる梨の花咲く畑広がる

宗像市 大井 木原ふさ子

草ひかむ思ひに足を踏みはづし童のごとく池に落ちたり

宗像市 鐘崎 安永久子

主なき庭の花木々萌え出でて吾をさがしているやもしれぬ

宗像市 曲 天野玲子

夜半ふいに余震のあればハツとして瞬時なれども身を固くする

福岡市 南区 井田有久衣

病室の窓より見えるみやしろの手水舎の手拭風にゆれいる

宗像市 日の里 石松弘次

制服に夢を包みし一年生瞳あかるく端正なりし

宗像市 大島 越智治子

鳥山は山櫻の咲く春となり海鳴りの音高ききこゆる

選者詠

道の辺に並べる小さき雪だるま並べる数、だけの観音

梅の枝の雫にいくつも穿たれし穴より融けゆき春の雪消ゆ

春の雪晴れたる空を流れゆく風雲あり猫の雲なし



宗像大社歌会 俳句作品集(五〇一)

宗像市 光岡 井上 嘉治

春疾風地蔵の前掛取り去りぬ

宗像市 光岡 白土 凌一

花なごみ心もなごむ季節かな

宗像市 田中 憲象

柿若葉耳納の風にかがやきだす

宗像市 日の里 花田いつ枝

山門の地震の傷あと春探し

宗像市 東郷 宗風社俳句会

観梅行温む御手洗口すすぐ

吉田 湧水

鶯の地鳴きの声や裏の籬

田中 雨葉

沼に浮く杭漂ひぬ蛸蚪の紐

木原 房子

ビルの窓地震に崩落春の街

編集後記

「ブログ」といふ言葉をご存知でしょうか?日記形式のホームページのことで、有名人だと中田選手の「ナカタドットネット」、話題性ではライブドアの広報担当「乙部綾子」さんの「お仕事日記」なんてのもあります。一般の人も個人でブログをし、人気ランキングもされているそうです。今月号で紹介した「ダイドー祭りドットコム」では神職は小生だけですが「みあれ祭現地特派員」として、全国各地の祭り担当者に混じってブログをしています。まだみあれ祭まで時間がありますので、関係ないことを(ほほ小生の日記に近い)書いてます。▼ブログをしている人を「ブロガー」といって下さる。機械に疎い神職ブロガーの記事もよろしくつたら御覧下さい。(M.O.)

宗像大社事務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島 電話 0940-62-1311(代) 発行人 伊藤佳和 編集人 大塚宗延 制作 ジーエータップ 印刷 セネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円